

古代アメリカ研究会

会報

No. 9

CONTENTS

古代アメリカ研究会役員会

会誌『古代アメリカ』第4号編集委員会からのお知らせ

会報およびホームページに関するお知らせ

ホームページへのアクセス障害および更新について(お詫び)

役員の任期について(お伺い)

シンポジウム報告

新入会員名簿

研究会紹介

事務局からのお知らせ

編集後記

2001年1月

古代アメリカ研究会役員会

日時：2000年12月10日（日曜日） 午後2時～

場所：駒場エミナース

出席者：大貫良夫、井口欣也、横山玲子、杓谷茂樹、馬瀬智光、渡部森哉

委任状：八杉佳穂、関雄二、多々良穰、柳沢健

議長：大貫良夫、書記：馬瀬智光

1. 2000年度決算について

- (1) これまで海外在住会員には国内在住者と同様郵便振替を送付し、一時帰国の際年会費を支払うよう求めていたが、未納者が多い。今後、銀行口座を開設し、海外から送金できるよう検討する。
- (2) 未消化予算が多いため、会報のボリュームを増やす等の意見がでた。

2. 会誌『古代アメリカ』第4号について

- (1) 現在、依頼原稿として、論文2本、研究ノート1本、書評2本、前号杓谷論文のコメントとリプライがある。他に投稿論文が2本あり、1月10日を目途に査読中である。現段階では頁数が増加すると予想されるが、未消化予算もあることから、多少頁数が増加することについては問題ないとの結論に至った。
- (2) 会誌の後ろに会員の調査歴を載せることにする。4号では2000年1月から12月までに行われた個人、グループの調査内容を予定している。（詳細は後述）

3. 2001年度総会、研究発表会について

- (1) 会長が5月14日から約2週間海外出張のため、6月9日、16日、23日を候補日とした。出席者約70名程度を見込み、第一候補に埼玉大学、第二候補に東京大学として会場確保に当たる。（後述のように6月16日埼玉大学での開催に決定）
- (2) 事務幹事の渡部氏が2001年4月より2年間ペルーに滞在するため、2001年4月より6月の総会・研究発表会まで長谷川悦夫氏に事務幹事代行を依頼することに決定。
- (3) 次回会報9号に発表予定者の募集を行う。

4. ホームページの活用について

- (1) 長期にわたって、ホームページが利用できない状態であったが、最近再開されるようになった。しかし、役員以外にはほとんど伝わっていない。
- (2) ホームページの更新についてこれまで、事務幹事が作成者の松本氏と連絡を取り進

めてきたが、今後、更新の頻度を上げるため複数の役員が松本氏と直接連絡し、更新作業を効率化することを検討する。

5. 事務幹事について

総会の項目でも議論されたが、2001年4月より6月の総会・研究発表会まで長谷川悦夫氏が代行する。

6. 2001年度予算について

以下のような予算案を立てた。

収入の部

■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■

支出の部

■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■
■■■■■		■■■■■

7. 新入会員について

新入会員2名承認。■■■■■氏の退会を承認。

8. その他

(1) 役員が多選について、杓谷茂樹氏から、役員任期を連続2期までとする会則改正案が出された。これに対し、選挙で選ばれる役員とそうでない役員を分けて考えるべきであるとする意見が出た。現在、選挙で選ばれる役員は、会長・代表幹事・事

ホームページの内容を充実させたいと考えております。つきましては、皆様の研究活動などについて、情報を提供して戴きたく、お願い申し上げます。

1. 会報

年2回の発行となりますので、情報の提供がやや遅くなります。そこで、1件の情報量を多くし、ある程度まとまった内容でお伝えしたいと思います。400-800字程度の掲載が可能です。

2. ホームページ

最新情報をできるだけ早くお伝えすることができますと思います。長々とした文章よりも、要点をまとめた、コンパクトな形で情報提供したいと思います。200-400字程度の掲載が可能です。

3. 内容

①調査・研究概報

これまでも会報で取り上げて参りましたが、古代アメリカに関する国内および現地での調査報告をお寄せください。今、誰が、どこで、どのような調査をしているのかということ、なかなか伝わり辛い情報です。会員の皆様の研究活動を活発化するためにも、是非情報提供をお願い致します。

②著書・論文紹介

古代アメリカ研究に関わる著書や論文などを、随時紹介したいと思います。ご自身の著書や論文を紹介したもの、最近読まれたものなど、簡単な内容紹介およびご意見・ご感想などをお届けください。

③研究会活動

現在、古代アメリカを研究対象とする研究・教育機関が増えてきており、各地で小規模な研究会が開催されています。しかし、これらの情報をまとめてお伝えする場合は、あまり見られません。研究会の内容について、外部からの参加の可否なども含めてご紹介させて頂きたいと思います。

4. 提出方法と宛先

提出方法：郵送および電子メール

宛先：古代アメリカ研究会事務局

ホームページへのアクセス障害および更新について(お詫び)

昨年秋より、「古代アメリカ研究会」ホームページへのアクセスができない、という障害が生じておりました。ご迷惑をお掛けして、大変申し訳ございません。

新しい URL は以下の通りです。

<http://hammer.prohosting.com/~antigua/>

研究活動報告などを含め、より充実したページを作成し、より多くの情報を提供するよう、努力して参ります。また、「掲示板」が十分に活用されておりません。会員の皆様におかれましては、是非「掲示板」を利用して、研究の活性化のみならず、会員相互の親睦を図って戴きたいと存じます。

役員任期について(お伺い)

先に開催された役員会において、役員任期に関する問題が取り上げられました。「古代アメリカ研究会」発足以来、役員選出選挙を行なって参りましたが、選出される会員が限定される傾向にあります。この問題に対し、役員会では主に次のような意見が出されました。第一に、役員連続任期を 2 期までとする規約改正を行ってはどうか、第二に、選挙によって選出される役員と、任意に選ばれる役員とは、区別して考えるべきではないか、という意見です。役員会では、役員多選について会員みなさんのご意見を伺うことで合意しました。この問題について、会員の皆様から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。古代アメリカ研究会事務局までお寄せ下さい。

シンポジウム参加報告

ワリ・ティワナク国際シンポジウムに関する報告

去る 2000 年の 8 月 18、19、20 日の 3 日間にわたって、ペルー共和国、リマ市のカトリック大学において、「ワリとティワナク：モデル対証拠(Wari y Tiwanaku. Modelos vs. Evidencias)」というテーマで第 3 回国際考古学シンポジウムが開催された。ワリとティワナクに関する大規模な国際会議としては、1985 年にアメリカ合衆国、ワシントン D.C. のダンバートン・オークス研究所で開かれた国際会議以来のものである。ワリ・ティワナクに関する近年の研究動向の紹介という意味も込めて、このシンポジウムの様子について報告したい。

発表は研究対象の地域別に区分された日程によって行われた。18 日は一般研究とペルー北部および中央部での調査成果の発表が行われ、19 日はペルー中央部から南部にかけての地域を、20 日はボリビアとチリを対象とした研究の発表が行われた。発表者としてはペルー、チリ、アメリカ合衆国、カナダ、ドイツの 5 カ国から 40 名ほどの参加があった。しかし残念ながら、予定されていたボリビア人研究者による発表は行われなかった。発表は朝

9:00 に始まり、途中休憩を挟みながら夜 7:00 まで続いた。また、このシンポジウムはカトリック大学の法学部講堂で行われたが、200 名ほど収容できると思われる会場は、連日ほぼ満席であった。

さて、発表内容に関してであるが、ワリ・ティワナク研究において幾つかの進展がみられた。まず、1985 年の国際会議と比較してみると、最近の研究の焦点は共通性から多様性へと移っている。1985 年の国際会議は、建築に注目しワリの行政体系を明らかにしようとするものであったが、そこではワリ関連遺跡の建築に見られる共通要素に焦点が当てられていた。しかし、今回の発表では、ワリ領域内、ティワナク領域内の多様性、地域性に目を向けたものが多かった。特にティワナクに関する発表では、ティワナク遺跡内部に見られる土器の多様性に注目したもの、モケグア地域におけるミドル・ホライズン期の集落別の物質文化パターンの差異に注目した発表があった。これらの発表は、遺物分析が進んだ結果、発掘調査直後の解釈が見直されていることを示していた。

また、ワリとティワナクの領域の問題に関する進展もみられた。まず、ワリ領域の北方の境界に関して、ペルー北海岸のサン・ホセ・デ・モーロ遺跡における調査成果に関する報告が興味深かった。この調査によってワリの領域の海岸部における北限に関して詳細な情報が集まりつつあるのと同時に、モチェとの関係も明らかになりつつある。また、ペルー南部のオコーニャ川流域の調査に関する発表は、ワリーティワナク間の境界の問題を考える上で、以前から注目されているモケグア地域の調査に加え、この地域の調査の重要性を訴えるものであった。

ワリとティワナクの具体的な拡大過程に関するデータも、各地の調査により蓄積されつつある。ワリの拡大に関する発表として、ミドル・ホライズン期のペルー中央高地北部、カエホン・デ・ワイラス地域の社会変化、ペルー中央高地南部のソンドongo地域と南部海岸ナスカ地域の社会変化に関するものなどがあつた。一方、ティワナクの拡大に関するものとして、ボリビアのコチャバンバ地域での調査に基づく発表があつた。

最後に、ペルー中央高地南部のコンチョパタ遺跡での調査に関する発表に触れてみたい。この遺跡はワリの成立過程に深く関係していたと考えられており、近年継続的に発掘が行われている。報告者自身 1998 年と 2000 年の発掘に短期間参加している。コンチョパタ遺跡の調査成果に関する発表は、最も出席者の注目を集めたもののひとつである。この遺跡は Julio C. Tello の発掘によって、ティワナク遺跡の「太陽の門」に彫刻された図像と酷似する図像をもつ土器が出土した遺跡として有名であるが、今回の発表では近年の発掘によって出土した、ティワナクとの交流を示唆する新たな土器図像の報告があつた。それは葦船に乗り楫と弓や斧をもった人物を表現したものであり、この図像がスライドで映し出されると出席者の間に歓声があき起こった。ほかにも女性の乳を飲むジャガー像などの興味深

経緯：1988年秋発足。東海大学文学部および大学院に在籍していた学生の中に、16世紀以前の新大陸に興亡した諸文明についてもっと勉強・研究したいという意思があっても、授業だけでは賄えないという状況を教員側が憂慮し、研究会の発足に踏み切った。

対象：限定なし。これまで、東海大学の教員、大学院生、他学部他学科を含めた学部生と、他大学の学部生が参加。

活動：月2回の研究会を開催。場所は湘南校舎3号館6階、文明第24研究室。建学祭(11月上旬)にも、企画展示として学科・大学院主催で参加。

内容：①個人個人の興味に沿って、古代アメリカ研究に関する論文をひとつ、ないし複数選択し、その論文を元に問題点や今後の研究方法などについて議論する。②現地調査の報告を行う。③論文作成中の学生が問題を提起するとともに、解釈等に関する試論を展開し、参加者による客観的批判を仰ぐ。

連絡先：

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117 東海大学文学部文明学科 横山玲子

Tel. [REDACTED]

E-mail [REDACTED]

事務局からのお知らせ

1. 古代アメリカ研究会第6回総会・研究発表会のお知らせ

日時：2001年6月16日（土） 午前中総会、午後研究発表会の予定

場所：埼玉大学・大学会館

研究発表会での発表希望者は、題名と要旨（400字程度、ホームページに掲載）を事務局までメールでご連絡ください。締め切りは2001年2月末日とします。なお当日の発表時間は一人30分を予定しておりますが、発表者の人数等により変更があり得ることをあらかじめお断りしておきます。

2. 知り合いの方で入会希望者がおられましたら、名前、ふりがな、住所、電話・FAX番号、電子メールアドレス、所属、関心分野を明記の上、入会希望の旨を事務局までメールまたは郵送でご連絡ください。

3. 2001年4月より事務幹事を長谷川悦夫さんが代行します。アドレスは [REDACTED] です。事務局の住所は変わりません。

4. 会費未納の方は同封の振り込み用紙で振り込んでください。

5. 古代アメリカ研究会のメーリングリストを作る予定です。これによってホームページにアクセスできなくなっていた状況などの問題に対処する予定です。2000年5月現在の名

簿のアドレスに間違いのある方、変更された方、新たに取得された方は事務局までご連絡ください。

6. 会員の■■■■■さんの転居先が不明です。知っている方がおられましたら事務局までご連絡ください。

編集後記

12月に開催された役員会に出席させていただき、会員の皆様や役員の方々の意見をいろいろと伺うことができました。ここで指摘された事柄を今後どう生かしていくのかを、真剣に考えなければなりません。「古代アメリカ研究会」のあるべき姿が今模索されているのだと受け止めております。今回の会報は、「こうしたらどうか」という提示に終始した感があるかもしれません。しかし、皆様の意見を実現していくためには、このような叩き台も必要ではないかと思えます。

何だかやっているな、ではなく、何かをやっているのは我々自身であり、それらを総合的な視点から統合する時代がやってきたことを痛感しています。そのためには、会報を積極的に利用して情報公開に努めなければならない。役員会の意見は、まさにその点にあったと思います。今回は、さまざまなお知らせとともに、皆様の研究、体験に関する情報提供と意見を求めています。会員の皆様の協力をお願いします。

会報担当になった時からずっと頼りにしてきた渡部さんが、ペルーへ留学することになりました。いろいろありがとうございました。頑張ってきて下さい。 (横山 玲子)

発行 古代アメリカ研究会

発行日 2001年1月12日

編集 横山玲子 ([REDACTED])

渡部森哉 ([REDACTED])

古代アメリカ研究会事務局

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学教養学部文化人類学研究室気付

電話/FAX : [REDACTED]

郵便振替口座 : 00180-1-358812

ホームページ URL

<http://hammer.prohosting.com/~antigua/>